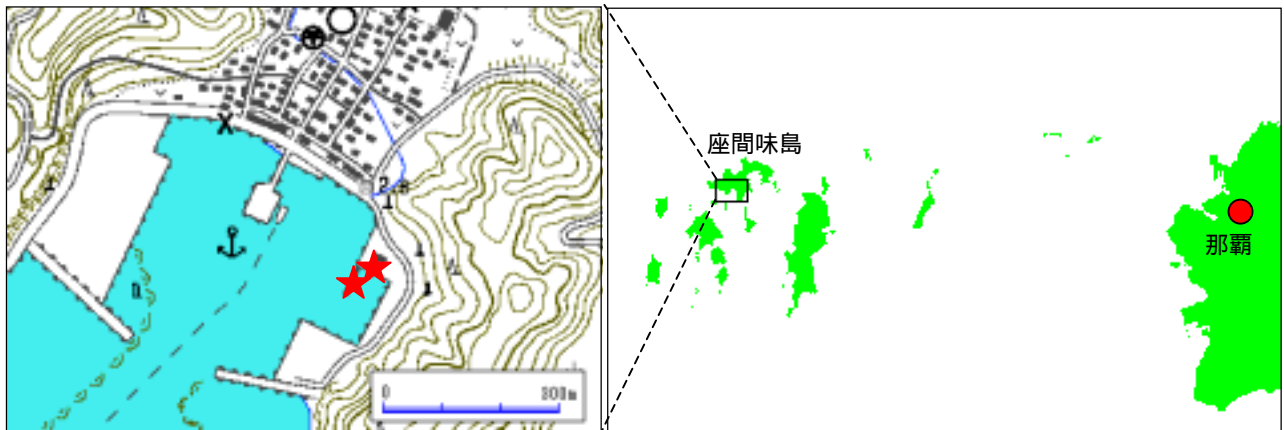


平成19年2月14日座間味村座間味港付近で発生した突風について (速報)

平成19年2月14日早朝、座間味村座間味港付近で突風による被害が発生しました。現地調査の結果、この突風は竜巻によるものと推定されます。

平成19年2月14日早朝に座間味村座間味港で、係留ロープが切れて船が流されたり、陸揚げしていたボートが横転するなど、突風による被害が発生しました。

1 被害発生場所及び周辺の状況



(被害発生場所)

地図出典：国土地理院「数値地図 50m メッシュ(標高)」 「数値地図 25000(地図画像)沖縄」

沖縄気象台が2月15日に現地調査を実施した結果、次のことが分かりました。

係留していた複数の船のロープが切れた。

陸揚げしていたボートの横転、位置ずれがあった。

被害は帯状のごく限られた範囲内であった。

物が持ち上げられたような痕跡があった。

突風が吹いている様子を見たり聞いたりなどの目撃情報はなかった。

14日04時30分ころには被害がないことが確認されており、最初に被害が確認されたのは14日07時過ぎであった。

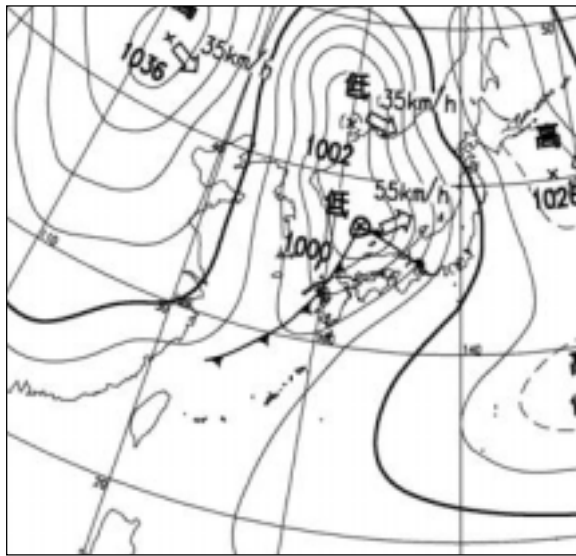
上記 や気象レーダーの観測から、突風が吹いたのは2月14日06時から07時頃とみられます。

また、上記 と の特徴から突風は竜巻によるものと推定され、 と などから竜巻の強度を表すFスケールは1以下と推定されます。

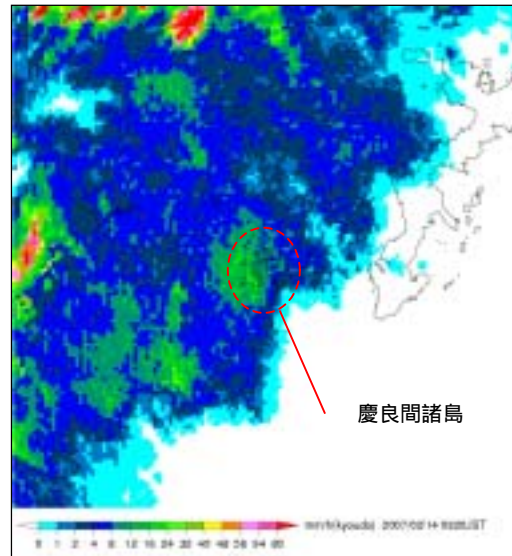
2 気象概況

2月14日06時には、寒冷前線が東シナ海を南下しており、昼過ぎにかけて本島地方や先島諸島を通過しました。この寒冷前線の南下に伴って、沖縄地方には南から暖かく湿った空気が流入していたため大気の状態が不安定となり、積乱雲が発達しやすい気象状況でした。

気象レーダーの観測では、降雨域は沖縄本島地方を発達しながら南下しており、06時頃には座間味村付近で雲頂高度が10～12 kmに発達した積乱雲による降雨域が確認されました。解析雨量では、座間味島周辺で07時までの1時間に13ミリ、08時までの1時間に14ミリを観測しています。



地上天気図：平成19年2月14日06時



レーダーエコー図：平成19年2月14日06時20分

参考 Fスケール（藤田スケール）

竜巻やダウンバーストの風速を被害状況から推測するため、シカゴ大学の藤田哲也氏が1971年に提案した基準で階級が大きいほど強いことを表す。

藤田スケール	風速	被害状況
F0	秒速 17～32m/s (約15秒間の平均風速)	煙突やテレビのアンテナが壊れる。小枝が折れ、また根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。
F1	秒速 33～49 m/s (約10秒間の平均風速)	屋根瓦が飛び、ガラス窓は割れる。またビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木の幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると道から吹き落とされる。
F2	秒速 50～69 m/s (約7秒間の平均風速)	住家の屋根が剥ぎ取られ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、また、ねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、車が脱線することもある。

(F3以上省略)

注) この調査結果は、2月15日までの資料により取り急ぎまとめたものです。後日、内容を訂正、追加することがあります。

本件担当：沖縄気象台業務課気候・調査室 上原、許田
連絡先：098-833-4043